

## 令和2年度 富山県美術館運営委員会 委員意見

- ・令和2年度富山県美術館運営委員会は、美術館の活動報告資料等を基に、委員各位より書面等にてご意見をお寄せいただく形で開催した。
- ・令和3年3月1日から24日までの間にご意見をいただき、下記のとおりご意見の要旨をまとめた。

### 主な意見要旨

#### (1) 展覧会事業について

##### 【A委員】

- ・瀧口修造とゴールドベルク夫妻のコレクション展示は、美術の歴史を多様な角度から辿るという点で重要だと思う。
- ・デザインの領域では、時代に合わせたスピード感を持った企画展（※）を期待したい。  
※企画展：コレクションで構成または館外作品の借用等を伴う特定会期の特別展示（以下、同じ）

##### 【B委員】

- ・コロナ禍で企画展の日程変更や開催中止など苦勞があったと思う。入場者の減少は仕方ない。
- ・企画展の会期が短いことが気になる。都心では、入場制限・予約等の方式をとりつつ、人気のある企画展や特別展は会期を伸ばすという方式がとられている。企画展は年間3本程度を軸に関連プログラムなどを丁寧に行っていくことも検討してはどうか。

##### 【C委員】

- ・「富野由悠季の世界」展(令和2年11月18日～令和3年1月24日に開催した企画展)は、富野監督と富山県(上市町)出身の細田守監督との対談の内容に感銘を受けた。家族が子供の頃に富野監督のアニメーションを観ていたので、広い世代で楽しめた。
- ・令和3年度も良い企画展が組まれており、特に「ポーラ美術館展」(令和3年4月から開催予定)はたいへん楽しみにしている。

##### 【E委員】

- ・企画展に関するワークショップ、講演会等が魅力的である。また、イベントの中には配信されたものもあり、コロナ禍の中でも工夫された取組が素晴らしい。

##### 【F委員】

- ・どの展示活動も丁寧に構成されている。特に瀧口修造コレクション、ポスターと椅子を軸にしたデザインコレクション(いずれも常設のコレクション展示)は高く評価したい。
- ・令和2年度の企画展のうち、感染症拡大により中止となった事は致し方ないが、開催した企画展の入場者数は評価できる内容である。

- ・企画展の数が多いのではないかと。また、全ての企画展で集客を狙わなくとも、年に1本は集客よりも富山県美術館の特色となっていくようなものを開催してほしい。

#### 【G 委員】

- ・「TADベスト版 コレクション+」（令和2年9月19日～11月3日に開催した企画展）は素晴らしい内容であった。あらためて富山県美術館のコレクションの質の高さと充実を実感した。ゲストキュレーターの視点も面白かった。
- ・瀧口修造コレクションのコーナーは、来館者には少しわかりづらい部分があると思う。ミロの作品など同コレクション内で親しみのある作品は、定期的な展示があるとファンとしては嬉しい。

#### 【I 委員】

- ・全般を通して、誠実な態度で一連の展示活動に臨んでいる様子が伝わる。

#### 【J 委員】

- ・感染症拡大により、中止や会期変更となった企画展があったことは仕方がない。展示活動のために努力を積み重ね、対応に苦慮されたことと思う。
- ・令和3年度の企画展が楽しみな反面、コロナ対策の事など美術館側の負担が心配である。

#### 【K 委員】

- ・中止や会期変更となった企画展があったが、展覧会活動が継続できたのは幸い。特に入場者1万人を超えた「TADコレクション+」「富野由悠季の世界」は、密にならない程度の盛況でよかった。今後、大型展では日時指定券での入場者数管理も検討されればどうか。
- ・関連事業を動画配信したことで、興味が沸いて来場するパターンも出てくる。会場でのイベントと併用していけばよい。企画展予告の5分程度の動画を増やしてはどうか。

#### 【L 委員】

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため企画展の中止や会期変更は致し方ない。
- ・企画展は様々なテーマで幅広い内容のものを計画・実施していることは評価できるが、集客や親しみやすさを意識したものが目立つ。学芸員による日常的な調査研究活動の蓄積に基づいた、専門性の高い企画展の計画と、そのような企画展に多くの県民が足を運ぶようになるための工夫や試みも必要。
- ・富山県における中核的な美術館として、地元作家の育成をはじめとする地域文化の振興や発信についても取り組んでいく必要がある。例えば、地元の若手や中堅作家をさまざまな展覧会や関連事業などにうまく組み込むことで、活動と発表の機会をつくるようなことも検討するとよい。地元作家だけを集めて展示するのではなく、幅広い参加がある展覧会に、地元作家も適切に組み込むというような広い視野で考えていくことが望ましい。

#### 【H 委員】

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、企画展やイベントの中止や会期変更があったが、展覧会活動が継続されていることは、美術ファンには明るい話題であった。
- ・「やさしい日本画」展（令和3年2月25日～4月4日までの企画展）での「やってみよう

ワークシート」は、他の来館者が書いた内容を見ることができる。他の方の感想を見て、多様な視点に触れることができている良かった。

#### 【O 委員】

- ・コロナ対策を講じた上で、魅力的な企画展やイベントが開催されたことに感心した。
- ・人数制限内とはいえ参加者が多く、コロナ禍だからこそ美術に出会う場が大切と思った。

#### 【P 委員】

- ・コロナ禍の状況下で中止となったものもあったが、様々な企画展など展示活動が展開されたのが嬉しい。定員制のイベントが定員枠満席や何十倍の抽選倍率になったもの（富野監督と細田監督の対談）があったことは、内容の充実とともに美術館への期待の表れである。
- ・アニメーションを扱った「富野由悠季の世界」が県美術館で開かれたことに驚いた。様々な領域や挑戦的な試みも含まれることで、美術館に興味をもつ人の範囲が一層広がるように感じる。

## （2）教育普及活動について

#### 【A 委員】

- ・教育普及活動は、この美術館が時代に先行してきた領域である。さらに予算をかけて県民へ貢献するとともに、全国の美術館へのノウハウの公開など期待したい。

#### 【B 委員】

- ・学校と連携しながら数多くのプログラムを実施しているが、幅広い世代に向けた内容で生涯学習の場として機能するとさらによいと思った。
- ・プログラムのレベル分けやシリーズ化など、複数プログラムの連携があってもよい。
- ・館名にアート&デザインを冠しており、館のマークやサイン、企画展ポスターなどでデザインの統一が順守されているが、教育普及やTADギャラリーの印刷物では統一されていないので、心がけた方がよい。

#### 【C 委員】

- ・子供が美術作品に触れる機会を持つのは大切なことだと思う。すべての家庭が美術館に子供を連れていくという事は難しいので、コロナ禍での難しさはあるだろうが、学校教育の一環として美術館を訪れる機会がもっとあると良い。

#### 【D 委員】

- ・企画展に関するワークショップ、講演会等が魅力的である。また、イベントの中には動画配信されたものもあり、コロナ禍の中でも工夫された取組みが素晴らしい。

#### 【E 委員】

- ・幅広い年齢層に向けて様々なプログラムが提案されているとともに、学校や館外の組織等との連携もみられ、精力的な活動をしていることが伝わる。

**【F 委員】**

- ・教育普及活動はよく考えられた内容であり、子供たちや地域に結び付いた様々なアイデアを実践しており、高く評価したい。

**【I 委員】**

- ・コロナ禍での活動で職員の苦労があると思うが、活動の持続と継続が大切である。

**【J 委員】**

- ・制限がある中で、工夫して活動を展開している。来館者に人気だったアトリエのプログラムが再開される日が待ち遠しい。
- ・美術館ボランティアの活動が大幅に制限され、士気が低くなっている人も増えている。
- ・感染拡大防止策のなか、友の会組織である TAD フレンドシップの各種事業が中止となったが、感染症の終息後に、様々な活動が再開されることを期待する。

**【K 委員】**

- ・コロナ禍での対面実施の困難はあるが、学校の児童生徒に向けたリモート出張授業の可能性も考えてよいのではないか。

**【L 委員】**

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止で、中止となった事業もあったことはやむを得ない。影響が続くことを想定した事業計画や実施方法の検討が必要。
- ・オンラインでの普及事業実施は、実際に人が集まる実施の代替えというレベルにとどまるべきではない。実際に美術館に人が集まり参加することと、オンラインでの参加の両方を可能とすることで、健康上の問題や育児のため、あるいは仕事や地理的な事情で実際に美術館までは足を運べないといった人たちへのアクセス環境を整えることができる。美術館という公共施設が取組まねばならない多様なバリアフリー化を推進する有効な手立てとなる。リアル参加とオンライン参加を併用するハイブリッド型の事業実施について、より積極的な意味で取り組んでいってもよいのではないか。

**【H 委員】**

- ・コロナウイルス感染拡大防止のため、アトリエでの制作活動に制約があるが、動画配信等で自宅でも楽しめるよう工夫されていた。
- ・県内外の作家によるアトリエのプログラムなども、新しい形を期待したい。

**【M 委員】**

- ・コロナ禍の中、社会全般が思うような活動ができなかった。この情勢に合わせて展覧会や普及事業が開催されていたことに、勇気づけられた。

**【O 委員】**

- ・コロナ禍であっても工夫された活動が多く、たいへん嬉しく思った。

**【P 委員】**

- ・児童生徒向けの鑑賞や制作活動は、感染症拡大防止策の中で難しいものとなった。図工教育の現場では、コロナ禍による活動場所確保の困難、臨時休業の影響から実技教科の時間

削除され、児童が集まった制作活動が難しくなっており楽観した意見が言えない状態だが、学校との連携により開催されてきた教育普及展は継続をお願いしたい。

- ・小中学校では、来年度より児童生徒に一人一台のタブレット端末が配付される。教育現場では、タブレットを含めた ICT 機器を活用した造形活動への研究をすすめている。タブレットを生かした造形教育の取組をしておられる方などの講演やワークショップなどがあれば、子供たちや教職員の学びの場となるのではないか。

### **(3) 富山県美術館の活動全般について**

#### **【A委員】**

- ・移転新築後、コレクションの充実度が全国的にだけでなく、県民にも改めて認知されるようになったと思う。美術、デザインのジャンルを横断するイベント等も期待する。

#### **【B委員】**

- ・全体の目標入場者数、健全な収支、県民との対話や満足度、新しい来館者世代の興味への対応などについて、客観的なデータやアンケートなどの結果を活かすことが重要。
- ・子供や中高年だけでなく、感受性の高い中高生にも魅力ある美術館活動を期待する。
- ・富山独自の伝統や技術とデザインの繋がりに注視する企画等でも、館活動の独自性を出せる。20 世紀以降現代までの領域については他館との連携で広げつつも、館独自のコレクションや企画を作ることで、将来的には存在感が増してくるのではと考える。
- ・オンラインを新しい普及の場としてとらえ、今後に向けた計画を立てたらよいと思う。

#### **【C委員】**

- ・奇抜な企画展や展示方法も面白いが、そればかりではなく、コレクションを含む展示作品そのものの魅力が引き出されるような展示や企画を期待したい。
- ・館内の順路が、高齢者には未だわかりにくいと感じる。

#### **【D委員】**

- ・移転新築に伴い来館者層が広がり、県民にアート&デザインが身近になった。コロナウイルスの影響はあるが、芸術文化に触れる機会を絶やさない工夫をお願いしたい。

#### **【E委員】**

- ・富山駅や環水公園という立地を生かした取り組みにより、県外からも注目されている。企画展等もまた訪問したくなる内容である。

#### **【G 委員】**

- ・コロナ禍の中で、大変見どころの多い活動を続けている。

#### **【I 委員】**

- ・諸々の活動から職員の熱心さが伝わり、好感が持てる。

#### **【J 委員】**

- ・富山県民が誇れる場所として定着した。今後も様々な教育普及活動や、富山県美術館らし

い展示や教育普及の活動を通じて、県内外の方々からより親しまれる美術館になってほしい。

#### 【L 委員】

- ・美術館活動の根幹は作品の収集であり、計画的かつ継続的に作品購入ができる環境の確保は、最も重要な基盤である。例えば企画展の実施時というチャンスを生かした購入や、また学芸員による日常的な調査研究活動を反映させての購入などが可能となるよう、毎年度しかるべき額の収集予算を確保が必要。近年は多くの公立美術館で、作品の購入環境が再び整えられつつある。富山県においても継続的な購入のための予算措置が望まれる。
- ・2017年の移転新築開館以降、基本的には順調かつ活発な美術館運営がなされ、来館者数も都道府県が設置運営する美術館としては高いレベルを達成しており、評価できる。
- ・これは展覧会や教育普及事業などを数多く実施しつづけている成果であるが、同時に現場スタッフの業務過多の要因になっていないか、また調査研究活動をはじめとする美術館活動を支える基盤業務を圧迫することになっていないかを点検する時期に来ている。
- ・目先の集客に追われるあまりに調査研究活動という基盤業務をおろそかにしていると、いずれは展覧会活動の質の低下や巡回展ばかりに頼る運営に陥ってしまい、結果として本来の美術館としての役割や、県民の期待に応えられなくなってしまう恐れがある。
- ・開館後、数年を経て美術館活動に一つの節目を迎えている時期でもあり、このタイミングで美術館全体の事業と業務量の総点検を行い、これからの活動が質と量の適正なバランスのもとで継続的に実施できるようにしていくべき。

#### 【N 委員】

- ・TADギャラリーでの美術連合会作家の展覧会は、連携にて是非継続していただきたい。
- ・海外や国内の著名作家や注目作家などで県内での鑑賞機会とともに、集客も見込んだ展示内容を組まれているが、旧近代美術館時代に比べて県内作家との繋がりが遠くなっているように感じる。移転新築から数年経っているなかで、県出身や県内で制作活動を続けている作家との繋がりも作っていくような活動に積極的に取り組んでほしい。

#### 【O 委員】

- ・令和2年度は夏休みが短縮され、継続されてきた事業「美術館に行こう」が実施されなかった。コロナ禍ではこのような学校から美術館に訪問する事業継続は不透明である。出張美術館のような、希望する学校で作品を身近に感じられる事業が検討されると嬉しい。

#### 【P 委員】

- ・見通しが立たないコロナ禍のなか、美術館の努力や工夫で多くの大人や子供たちが、美術作品や造形活動等に触れる機会を得た。教育現場からの意見であるが、今後も県内の子供たちが、美術館の作品や活動に触れることができる配慮をお願いする。